

枚方市が歩んだ65年



▲昭和17年に竣工した旧枚方町役場庁舎が市役所に（現在のサンプラザ1号館付近）。



▲内務省（当時）に提出した市制施行上申書

昭和39年 東京オリンピック

日本国憲法施行

- | | | | | | | | | |
|---------------------------|---------------------------|----------------------------------|-----------------|--------------------------------------|------------------------|-----------------|--------------------------|-----------------|
| 昭和43年 | 昭和42年 | 昭和41年 | 昭和35年 | 昭和33年 | 昭和30年 | 昭和25年 | 昭和23年 | 昭和22年 |
| ● 国の特別史跡・百済寺跡が日本で最初の史跡公園に | ● 市制施行20周年を記念して「菊」を市の花に制定 | ● 市内を南北に貫く国道1号枚方バイパスが全面開通（18ページ） | ● 市役所新庁舎（現本館）竣工 | ● 「東洋一」と言われたマンモス団地・香里団地の入居始まる（10ページ） | ● 津田町を合併。現在の市域に（16ページ） | ● 市民病院が開院（7ページ） | ● 定期的な家庭ごみ収集がスタート（13ページ） | ● 市制施行
人口4万人 |



ひらかたパークの「ひらかた大菊人形」で枚方の代名詞となった菊人形。平成17年の閉幕後は「ひらかた市民菊人形の会」が菊人形作りに取り組んでいます。

◀ひらかた大菊人形「忠臣蔵絵巻」（昭和57年）

「ひらかた」の地名はいつから？

いつ頃から「ひらかた」と呼ばれるようになったのかは分かりませんが、『日本書紀』には「ひらかたゆ 笛吹き上る 近江のや 毛野の稚子い 笛吹き上る」という歌が残されています。また、奈良時代の『播磨国風土記』には「河内国茨田郡枚方里」という地名が記されています。



▲昭和40年代以降、宅地開発が進んで転入者が増加し、子どもの数も急増しました。市は昭和40年から20年かけて46の小・中学校を新設しました。特に昭和45年以降は校舎の増築や学校の新設が児童・生徒の増加に追い付かず、プレハブ教室が急増。校庭の大半をプレハブ教室が占める学校もあるほどでした。



▲駅前広場が整備され百貨店も進出した枚方市駅前再開発事業（昭和50年）。

第1次オイルショック

大阪万博

昭和57年

●楠葉公民館（現生涯学習市民センター）オープン

●府内初の非核平和都市宣言

昭和51年

●第1回枚方まつり（15ページ）

昭和50年

●枚方市駅前再開発事業完成

昭和49年

●高知県中村市（現四万十市）と初の友好都市提携

昭和48年

●市立図書館発足。分室や自動車文庫も開設

昭和47年

●本格的なショッピングモールの先駆け「くずはモール街」オープン（26ページ）

●市民会館大ホール完成

昭和46年

●市民によるまちづくりの思いをうたった枚方市民憲章制定

昭和45年

●人口20万人を超える

昭和44年

●全国初の病児保育室が香里ヶ丘に誕生

築40年以上が経過した現在、新たな総合文化施設の整備に向けた検討を進めています。

医療機関併設型の病児保育室は全国のモデルに。現在は4カ所あり、働く親の強い味方となっています。



▲昭和52年の選抜高校野球で、友好都市・中村市の中村高校が部員12人で準優勝。市民会館大ホール前で祝賀歓迎会が行われました。



▲平成4年、全国高校ラグビーで初優勝した啓光学園（現・常翔啓光学園）が枚方市駅前をパレード。その後東海大仰星高も優勝を果たし、枚方は「ラグビーのまち」として知られるように。



▲高架化工事が進む枚方市駅（平成3年）。

平成12年 介護保険法施行

阪神・淡路大震災

消費税導入

平成15年
平成13年
平成11年
平成10年
平成7年
平成5年
平成4年
平成元年
昭和63年
昭和58年

- 枚方市駅・樟葉駅に平日昼間と土曜・休日の終日特急停車
- 枚方宿鍵屋資料館オープン
- 市内6大学と市民、行政が連携したまちづくりを目指す「学園都市ひらかた推進協議会」設立
- 市内全域で高度浄水処理水の供給を開始
- 人口40万人超える
- 阪神・淡路大震災の被災者支援として救援対策室を設置
- 着工から15年に及んだ枚方市駅高架化工事が完成
- 全ての駅周辺が自転車放置禁止区域に
- 禁野火薬庫爆発50年を機に3月1日を「枚方市平和の日」に制定
- 総合体育館オープン
- 全国に先駆け知的障害者のガイドヘルプ事業をスタート

オゾンと活性炭による高度浄水処理を導入。カビ臭はほぼ100%なくなりました。

災害時の貴重な情報伝達手段として、平成9年にはコミュニティ放送局「エフエムひらかた」を開局。

▼平成24年3月1日、メッセージキャンドルに明かりを灯す「平和の燈火(あかり)」を実施。平和の大切さを伝え続けています。



▲枚方宿鍵屋資料館オープン当日の大名行列（平成13年）。今では枚方宿周辺で町屋を生かしたおしゃれなカフェや雑貨店が増え、買い物や音楽を楽しむイベントも定期的に行われています。





▲「にほんの里100選」に選ばれた穂谷の里山。



▲毎年4月の「さくらまつり」では桜並木を眺めながら天野川堤防を走る人力車が人気です。

東日本大震災

障害者自立支援法施行

- 平成24年
 - 健康医療都市ひらかたコンソーシアムを創設
 - 市制施行65周年
- 平成23年
 - 東日本大震災の発生を受け災害復興支援基金を設置
- 平成22年
 - 第二京阪道路が全線開通
- 平成21年
 - 穂谷地区が「にほんの里100選」に選ばれる
- 平成20年
 - 新火葬場やすらぎの杜、東部清掃工場オープン
- 平成19年
 - 全45小学校区で自主防災組織が発足
 - 市制施行60周年を記念して「桜」を市の花に制定
- 平成18年
 - 関西医科大学附属枚方病院が開院
 - 津田サイエンスヒルズがオープン
 - 下水道普及率が90%を超える
- 平成17年
 - 輝きプラザきらら、中央図書館オープン

病院・大学など市内13の医療関係機関でコンソーシアム(共同事業体)を創設し、「健康医療都市ひらかた」の実現を目指します。



▲岩手県大槌町でガソリン給油を行う職員(平成23年4月)。東日本大震災の被災地を支援するため枚方市支援本部を設置し、救援物資の提供や職員の派遣などを行いました。



◀第二京阪道路。

▼やすらぎの杜。

